

# 平成22年ホヤ類調査結果速報 No. 5

平成22年10月27日

渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

10月12日～18日に、噴火湾沿岸において、ホタテガイ付着生物の調査を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

## 結果概要

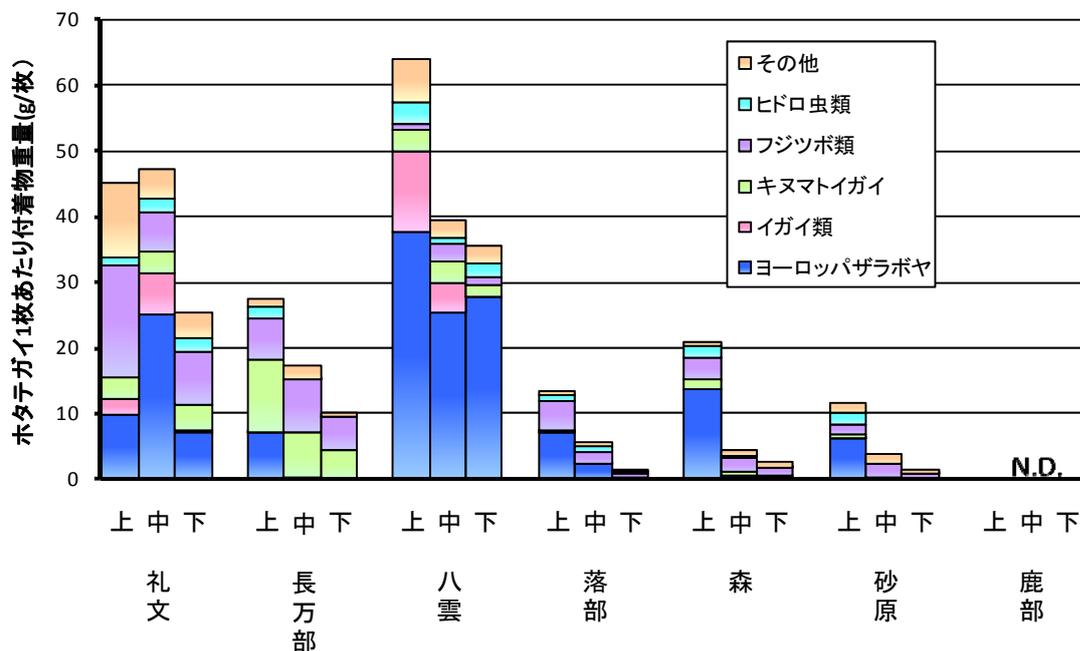
- ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着量が増加しています（P2-図1）。特に八雲地区はヨーロッパザラボヤの付着量が多く、今後、貝洗い等による付着物対策が望ましい状況です。
- 付着している個体のサイズは、地区により差がみられます（P3-図2）。礼文、長万部、八雲地区では、5mm以上の個体が中心となっています。一方、落部、森、砂原地区では、5mm未満の個体の占める割合が比較的高く、新たな個体の付着が続いていると考えられます。
- 礼文地区では、ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生量が増加しました（P3-図3）。今後も新たな付着が起きる可能性がありますので、ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着状況とその変化に十分注意願います。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場  
TEL：0138-57-5998 FAX：0138-57-5991

# 1 : 渡島北部、胆振管内調査結果

[調査月日 : 10月12日~18日、調査地区 : 礼文、長万部、八雲、落部、森、砂原]

図1 各地区の種類別付着物重量(10/12~18)



## 先月 (9/6~14) の調査結果 (参考)

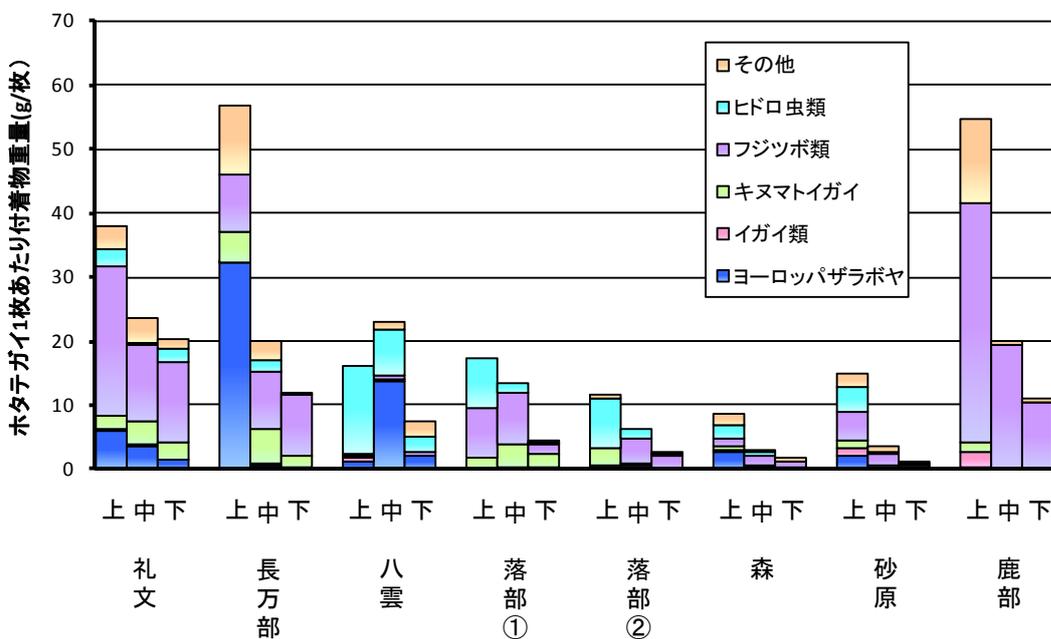


図2 付着個体のサイズ組成

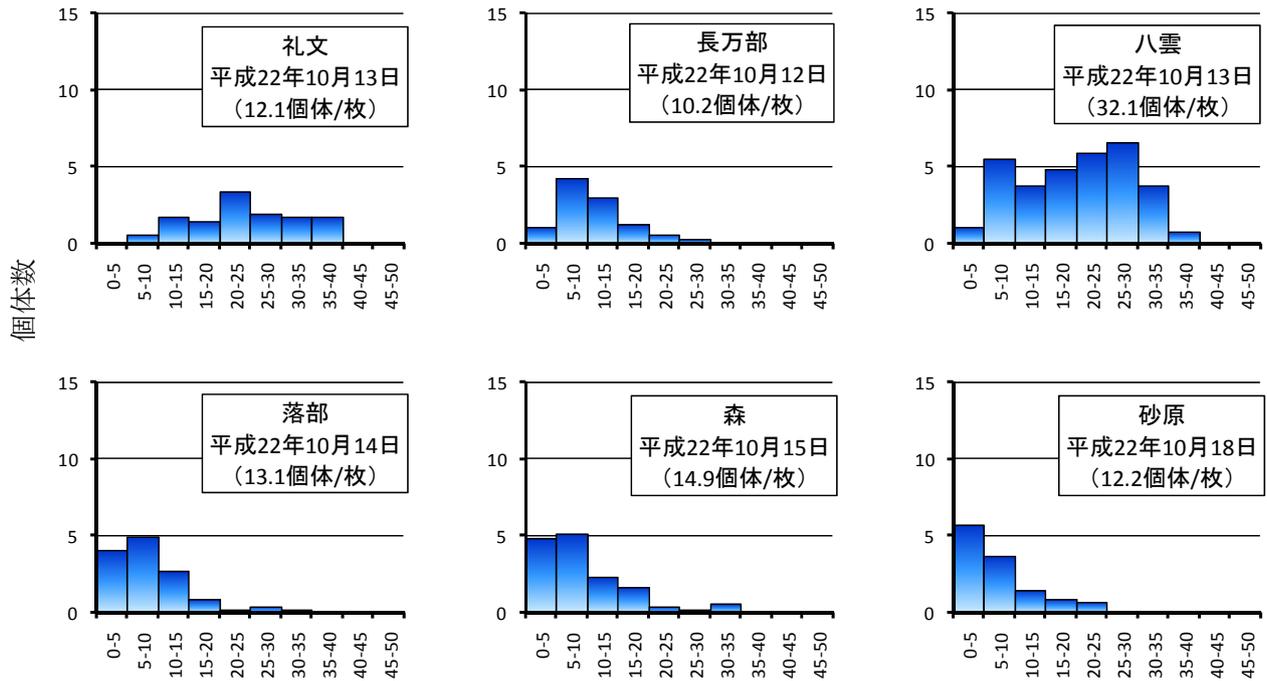
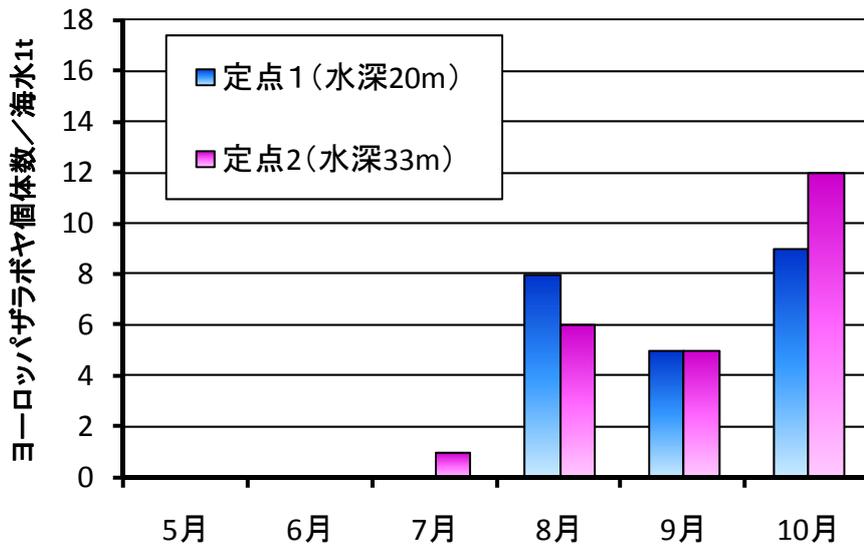


図3 豊浦町礼文華沖合浮遊幼生調査結果(10/13)



[礼文地区]

付着物量は他地区と比べて多く、フジツボ（ハナフジツボ）の比率が高いです。しかし、これらのフジツボの多くは死殻でした。ヨーロッパザラボヤは付着物の20%以上を占め、特に中層においては50%以上を占めています。また、浮遊幼生密度も増加していることから、**今後の付着量の増加に警戒して下さい。**

[長万部地区]

ヨーロッパザラボヤ以外の付着物量は他地区と比べて多いですが、ヨーロッパザラボヤの付着量は、先月と比べると大きく減少しています。この時期

にヨーロッパザラボヤの付着量が減少することは、これまでも確認されておらず、調査した「連」による付着状況の違いが反映されたと考えられます。連によって、ヨーロッパザラボヤの付着量が増加している可能性がありますので、十分に注意して下さい。

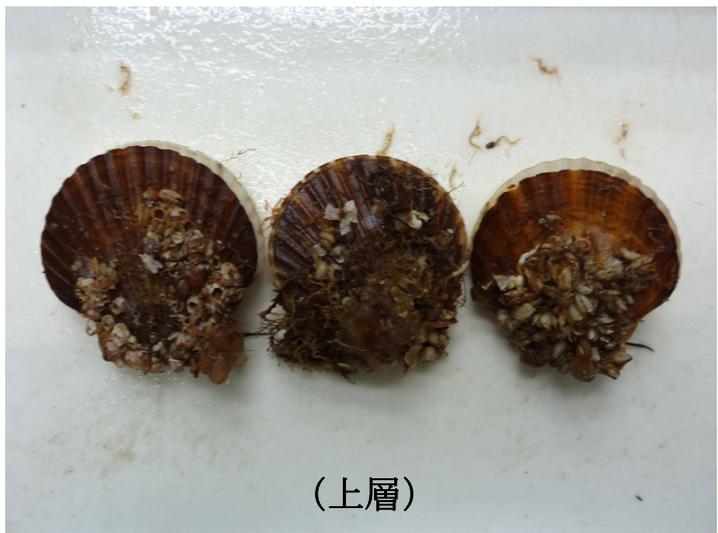
**[八雲地区]**

今回の調査で、付着物量が最も多い地区でした。付着物に占めるヨーロッパザラボヤの割合が高く、全層で50%以上を占めています。特に下層では、付着物の80%近くをヨーロッパザラボヤが占めています。今後、貝洗い等による付着物除去の対応が望ましいと考えられます。

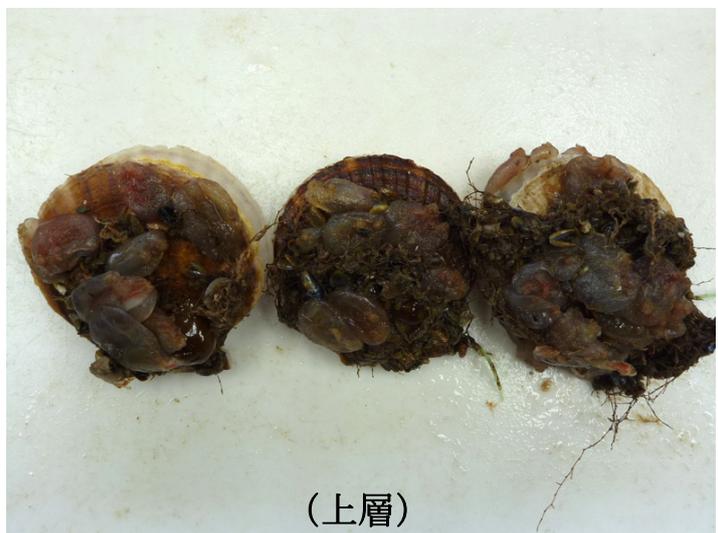
**[落部地区]、[森地区]、[砂原地区]**

付着物は、他地区と比べて少ない状態です。先月と比較すると共通して、上層でヨーロッパザラボヤ付着量が増加しました。また、5mm未満の個体が占める割合が高いため、今後、付着個体の成長による付着重量の増加に対して、注意して下さい。

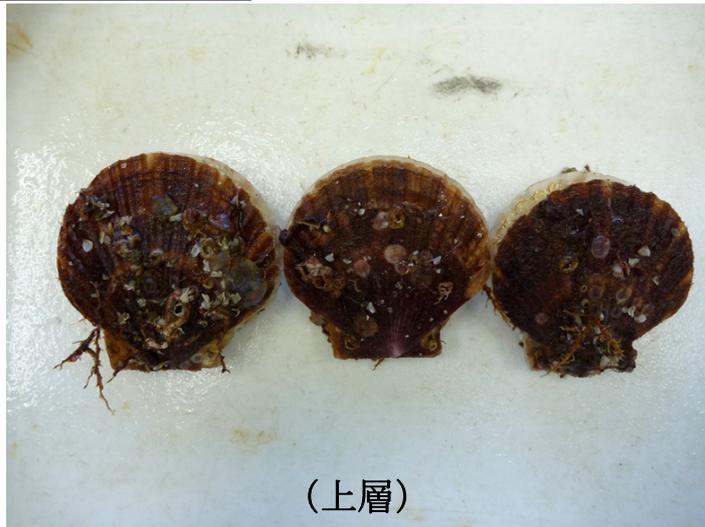
長万部地区 平成 22 年 10 月 12 日



八雲地区 平成 22 年 10 月 13 日



落部地区 平成 22 年 10 月 14 日



森地区 平成 22 年 10 月 15 日



砂原地区 平成 22 年 10 月 18 日



※各地区、最もヨーロッパザラボヤの付着量が多い層の写真です。  
※礼文地区の付着状況の画像については、胆振地区水産技術普及指導所が発行している「平成 22 年度養殖ホタテガイモニタリング調査結果報告(10 月)」を参照して下さい。